

平成 21 年度 第 4 回草津市次世代育成支援対策協議会

日時：3月4日（木）14：00～
場所：草津市役所 8階会議室

【次第】

開会

1. あいさつ

2. 議事

■ 後期行動計画の素案について（一部修正報告）

■ 計画書概要版について

閉会

【議事内容】

<会長>

議事に入る前に、パブリックコメントで1件も意見がなかったことは非常に残念です。では、本日は最終の協議会になりますが、まず、事務局より議事についてもご説明をお願いいたします。

<事務局>

－後期行動計画の素案について（一部修正報告）について 説明－

<会長>

ありがとうございました。ただいまの「後期行動計画の素案について（一部修正報告）」について何かご意見等ございますでしょうか。

<委員>

資料1の「計画の推進体制と進捗管理」のなかで、3つ目の項目に「今後利用したい子育て支援サービス」があがっており、「子育て支援センター」「つどいの広場」「ファミリー・サポート・センター」などがあがっていますが、それぞれの認知度をあげていくということですか。

<事務局>

利用している、利用していないに関わらず、「今後利用したいか」をここで聞いています。あくまで

もニーズ調査という位置づけで5年後アンケートを実施するので、現実まではなかなかふみ込むことはできないと思います。

<委員>

「子育て支援センター」「つどいの広場」「ファミリー・サポート・センター」があがっていますが、それぞれの平成26年度の目標が50%以上となっていますが、リピーターとしてこれまで利用した人の数値か、新たに利用する人を対象として50%まであげるのでしょうか。

<事務局>

前回そして、今回実施したニーズ調査では実態までつかめない状況ですので、今後実施する調査においては、調査方法も検討します。

<会長>

アンケート調査の限界もあり、調査の捉え方や解析の仕方が非常に難しいのは確かです。

<委員>

この検証指標にあげている項目については直接聴き取りをして意見を取ったのですか。

<事務局>

無作為に抽出をしてアンケートを実施しています。計画書のP34にニーズ調査の概要を掲載しています。就学前児童保護者対象調査が1,000件、小学生児童保護者対象調査が1,000件、中学生保護者対象調査が500件、一般対象調査が500件となっています。

<会長>

不特定多数の方に聞くのではなく、実際にサービスを利用した方を対象として、そこからあがった人数を指標化するほうが、指標対象が明確になると思います。

<事務局>

対象を明確にし、利用者の満足度をおうかがいするのであれば、ニーズ調査ではなく、満足度調査を行えばよいということでしょうか。

<会長>

必ずしもどちらの調査が良いかということではなく、国の動きもありますが、行政がこの5年間で目指すスタンスにもよると思います。ニーズは把握しながらも、個々のサービスの満足度を把握する質的な調査も必要になってきますので、検討する余地はあると思います。また、まだ認知度が34%であるならば、ニーズというよりも、今の実態を5年後で比較するほうがよいと思います。まず、子育てサービスを知ってもらうことからはじめ、この子育てサービスはどのような内容で、どこに行けば利用できるかなどを周知する必要があります。子育てサービスの満足度はその次にあるものです。利用対象者に情報を周知徹底することが行政の役割でもあることから、認知度を指標に設定することが5年後どれだけ子育てサービスを市民が知っているか把握でき、利用拡大にもつながると思います。

<委員>

「子育て支援センター」「つどいの広場」「ファミリー・サポート・センター」の指標がまとめて50%となっていますが、そもそもサービスの内容や形態も異なることから、この3つを同じ目標で括るのは困難ではないでしょうか。まとめて50%ではなく、個別で検討してみてもどうでしょうか。

<事務局>

まだ、指標案の状態ですので、修正は可能です。本日も意見をいただければと思います。

<会長>

私は認知度が最もよい指標であると思います。必ずしも子育てサービスの利用率が高まることがよいとはいえません。先ほども言いましたが、行政で大事なことは情報提供であり、サービスの認知度をあげることが行政の役割であると思います。

<事務局>

認知度については、計画書各論のP99で「ファミリー・サポート・センター」「子育て支援センター」「つどいの広場」の認知度を個別に指標設定しています。ここで個別事業の評価を行っていますので、敢えて計画全体の指標としてあげる必要はないかと思います。

<会長>

子どもを増やしていただかないことには、この事業自体が成り立たないですね。

<委員>

リーディング事業の追加として、新規事業で「子育てサークルバックアップ事業」があがっていますが、これは47団体が対象となるのか。子育て支援センターのみを対象としてあげているのか。

<事務局>

子育てサロン・サークルは市民が個別に活動しているものを対象としています。また、子育て支援センターの内容としては、計画書P22、つどいの広場事業の内容は計画書のP23に掲載しています。今回資料にあげている子育て支援センターについては、地域子育て支援センターを対象としてあげています。

<委員>

私は47団体との関連で考えているので、理解しにくいです。

<事務局>

ここにサークルやサロンの数も入れたほうがよいということでしょうか。地域ごとでサークル・サロンの数を把握しているわけではございません。つどいの広場事業も現在地域に1か所ですが、さらに増やすことを目標にしており、5年後に6か所に増やします。

<会長>

全体的なまとめとして、ニーズを指標として扱うのは妥当ではないと思います。子育てサービスの利用度を指標に設定した場合でも、地域のサークル・サロンの活動が活発になり、子育てサービスの利用が下がることも考えられます。計画全体の評価としてみるには偏りすぎているのではないのでしょうか。やはり、行政としてできることは認知度を高めることに尽きると思います。認知度は各論で個別事業の評価として設定されているのであれば、全体の評価としては、上記2つ指標でよいのではないのでしょうか。1番目が個人（市民）の指標、2番目が地域の指標、3つ目が行政の指標と考えれば、やはり3つ目は認知度になると思います。もう1度事務局で検討してみてください。

<委員>

この指標をここの出された意図がわかりません。子育て支援センターは子どもたちとふれあうことができます。つどいの広場事業は思いついたとき、ファミリー・サポート・センターは会員制であり、それぞれを充実させていくことも大事ですが、それぞれのサービスの目的や対象、設立意図も大事にするべきではないでしょうか。

<事務局>

3つの事業の整備方針や今後の具体的な目標事業量については、計画書P120に設定しています。

<委員>

地域子育て支援事業の位置づけを明確にする必要があると思います。

<事務局>

事業内容については、P121に内容を掲載しています。

<会長>

今後の事業の進め方の、1つの方向性として検討をしてみてください。

<委員>

会長から評価指標として認知度というご意見もありますが、この3つを評価するのであればやはり満足度ではないかと思います。

<会長>

たくさんのご意見をいただきましたが、いまの議論の内容をふまえていただき、再度検討してください。

<会長>

会長一任ということによろしいですね。このように数値目標を設定し、5年後を迎えるのは非常によいことだと思いますので、よく検討を行ってください。

<委員>

後期計画の見直しについて、どのようなかたちで進められていくのでしょうか。

<事務局>

今後、毎年計画の進捗状況について、指標に基づき各事業を検証してまいります。その結果を引き続きみなさまのご協力をいただき、報告をさせていただき、協議していただきたいと思います。そのため、5年後に集まっていたくというのではなく、1年に1回になるのか、半年に1回になるのかは未定ですが、みなさまにお集まりいただき、計画の進捗を評価していただきます。

<委員>

政権も変わり、子育てや子どもを取り巻く取り組みも変わってきているため、国に動きにあわせて点検していく必要があると思います。

<会長>

1つ目の議題でかなり時間を費やしてしまいましたが、もう1つ議題があります。概要版について、事務局ご説明をよろしく願いいたします。

<事務局>

－計画書概要版について 説明－

<会長>

ありがとうございました。計画書概要版について、何かご意見ございますでしょうか。是非委員のみなさまにおかれましては、市民の目線でご覧になっていただければと思います。個人的には表紙の理念の文章が長くてとっつきにくい印象があります。必ずしも表紙に理念をもってくる必要もないと思います。P5にも理念が出てくるので、表紙は伝わりやすい表現、『「笑顔輝くまち草津」をめざそう』などがよいと思います。

<委員>

概要版は市民が手に取りたいと思えるようなものにしていただきたいと思います。これでは見ないと思います。表紙の文言も「みんなで子育て支援」などの表現がよいと思います。

<委員>

P5の男性が授乳しているイラストですが、眉毛が下がっていて困ったイメージを受けます。

<委員>

P8の国の事業について、特定保育事業や夜間保育事業などはこのままでよいのでしょうか。5年間の取り組みなので、どこかで対応するなど検討してみてはどうか。

<委員>

P 6 のリーディングプロジェクトやP 7 の基本目標に基づく基本施策など、年代別に利用対象者がわかるようなものにしてはどうか。乳幼児期はこの取り組み、小学校期はこの取り組みなど、ライフステージに応じて体系化すると見る側もわかりやすいと思います。

<委員>

P 8 の通常保育事業の下に「待機児童の解消を図ります」とありますが、もう少し表現をやわらげてもよいのではないのでしょうか。

<委員>

P 3、P 4 にグラフを掲載されていますが、ここまで細かくされると非常に見難いです。全ての内容を掲載するのではなく、ニーズ調査も概略化して全体の傾向として内容を明記したり、視覚的に伝えるのであれば、円グラフや帯グラフなどを用いてもよいと思います。

<事務局>

いただきましたご意見を参考にみやすく修正をさせていただきます。

<委員>

行動計画をみて喜ぶのは親であると思います。リーディングプロジェクトやたくさんの取り組みが掲載されていますが、親側として一番草津市が力を入れていく内容を盛り込んでいただきたいと思います。

<会長>

具体的にどこをどう組み替えたらいいかなどありますか。

<委員>

P 6 では重点的な取り組みについては、0 歳から 6 歳までの子どもを対象に、小学生の親としてどこが支援されている内容かがわかるようなものにしていただければと思います。

<事務局>

計画書のなかで情報提供の充実の 1 つとしてそれらの内容については対応を図っています。また、実際には計画の実行段階で検討を行います。

<委員>

市のホームページでも掲載されるのであれば、それぞれの項目や取り組み内容を栗クリックすると、該当する内容にジャンプするなど、工夫していただければと思う。

<委員>

ニーズ調査を実施して、課題を見出しているのであれば、ニーズ調査とリーディングプロジェクトも対応しているようにしたほうが見やすいし、理解しやすい。

<会長>

最後にホームページにも掲載するなど、いろいろ案を出していただいています。できるだけわかりやすく図表を変更するなど対応を図ってください。また、リーディングプロジェクトとニーズ調査の関係性や体系図をこの段階で変更するのは難しいと思いますが、今後計画に取り組まれる段階、また、情報提供する段階で検討を行っていただければと思います。あと、最後に表紙の文言の検討もお願いいたします。本日はどうもありがとうございました。